

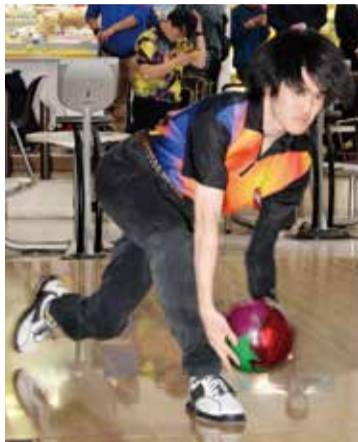


第51回全日本大学個人選手権

2月18~20日
新狭山グランドボウル

男子 古畑和輝、女子 向谷優那選手 ともに2年生で初の大学日本一に

『第51回全日本大学個人ボウリング選手権大会』には、男子134名、女子32名が参加して学生ナンバーワンの座を競ったが、男子は古畑和輝選手(東京経済大学)、女子は向谷優那選手(福岡・日本経済大学)がそれぞれ初優勝を飾った。(主催: (公財)全日本ボウリング協会)



▲両手投げにして2年足らずで大学個人選手権を制した古畑選手

男子

男子は、予選(12G)を1回戦から4回戦までいずれも700シリーズの2997を打った増井陸選手(千葉工業大学)が、ダントツのトップに立っていた。準決勝(6G)では、予選12位の古畑和輝選手が1524を打って、増井選手から91ピン差の2位につけると、決勝(3G)でもその勢いのままに765を打って、トータル4950で逆転優勝を飾った。

決勝を594とやや苦しんだ増井選手は、トータル4870で

2位にとどまり、6位で決勝進出の近藤雄太選手(岡山商科大学)が、決勝で694を打って、4750で3位に食い込んだ。



▲200以下は21G中1Gだけと安定した内容で3位の近藤選手

したいと思って、大学1年のときから両手投げにチャレンジした。自己流で取り組んで2年足らずだったので、決勝に残ればいいなぐらいの気持ちだった。でも最終日、準決勝の練習ボールで、右投げの人が苦勞していたのに対し、自分はこれまでにないぐらい幅を感じられた。今回はレーンに助けられた部分大きいけど、両手投げにしてよかったと思う。



▲姉妹で同じタイトル制覇に「とりあえず目標をひとつクリアできた」と向谷選手

女子

準決勝で1404を打った伊勢川華愛選手(和歌山大学)が3910の1位で決勝に進出したが、21ピン差で工藤ひかる選手(函館短期大学)、さらに7ピン差で向谷優那選手が続くなど、混戦となっていた。

決勝は伊勢川選手が1G目151と苦しむ間に、214を打ってトップを奪った向谷選手が、



▲ともに2年生で初優勝の古畑選手(左)と向谷選手

2G目は258を叩いて差を広げ、そのままトータル4523で初優勝を飾った。その向谷選手に肉薄したのは、5位で決勝進出の泉宗心選手(聖カタリナ大学)。最終Gの10フレをダブルば逆転だったが、痛恨のスプリット。トータル4495で、伊勢川選手と同ピンでフィニッシュしたが、シリーズ、ロー・ハイの差の少なかつた泉宗選手が2位、伊勢川選手が3位となった。

はレーンの変化に対応できなくて、とりあえずスベアをと思ったけど、スプリットが2回出てしまった。隣の泉宗さんは見ないようにしていたけど、音でストライクが続いているのはわかった。姉(美咲=第45回、46回大会優勝)と昔から比べられて、私もいつか全国大会で優勝をと思っていた。お母さんの前で優勝したいという願いが叶った。また藤井信人プロ、浅田梨奈プロにはずっと指導してもらっているのに、結果を残せていなかったのよかったです。



▲逆転はならなかったが「調子は上向き」と表情は明るかつた泉宗選手

◎向谷選手のコメント

決勝の1、2G目は運もあって、いいスコアが出たけど、最終G



▲決勝1G目を155とつまずいたのが響いて3位の伊勢川選手

◎古畑選手のコメント

高校(堀越高校)に入ってからボウリングを始めて、2年生のときに高校対抗で優勝できたけど、当時は曲がらない球質だったので、曲げるボウリングを



▲予選は独走の増井選手だったが、決勝で逆転を許した2位にとどまった

JBC会長杯 第35回全日本年齢別選手権

2月7~9日/山科グランドボウル

19歳以下の部は石田智輝選手が圧勝

各部門12Gトータルピンで争われたが、19歳以下の部は、石田智輝選手(大阪)が、すべてのシリーズを700アップの2926を打って快勝した。

20歳代の部は、予選2回戦で800シリーズをマークした野村経博選手(学生連合)がトータル2775で優勝した。

30歳代の部は、2003年の

第18回大会で19歳以下の部優勝の森野丈栄選手(東京)が2667で、2部門制覇を果たした。

40歳代の部は、予選でリードを奪った日比正裕選手(愛知)が、トータル2690で危なげなく逃げ切った。

50歳代の部は、9位で決勝進出の宮本信吾選手(福岡)が、

決勝でビッグゲームを連発して2700で逆転優勝を飾った。

60歳代の部は、28回大会で優勝の西田一善選手(和歌山)が、2662で7年ぶり2度目の優勝を飾った。

70歳以上の部は、野澤俊之選手(千葉)が2562で優勝。野澤選手は26回大会の60歳以上の部に続く2冠となった。



▲各部門の優勝者

JBC 第37回全日本実業団都市対抗選手権

1月31~2月2日
津グランドボウル

日本精工藤沢が初優勝

『第37回全日本実業団都市対抗ボウリング選手権大会』は、47の市区町村から72チームが参加して争われた。

予選の上位24チームが決勝に進出、決勝は12チームずつ2グループに分かれ、ゼロスタートのベーカー方式による総当たり戦を行い、さらにその時点の、各グループの同順位同士によるポジションマッチ2Gの総

得点(各G勝ちポイント20)で優勝が争われた。

総当たり戦を8勝3敗の1位でポジションマッチに臨んだ日本精工藤沢(斎藤・小林・小西・村上・中川)が、ポジションマッチを1勝1分けで、トータルを2983点まで伸ばして初優勝を飾った。2位には15点差でJFE西日本A(石本・福田・東・石川)が入った。



▲初優勝の日本精工藤沢チーム